

# 平成 29 年度 学校評価・学校関係者評価実施結果報告書

## 岡山県理容美容専門学校

### 1. 教育目標

本校は、実践的な理容・美容の職業教育を行い、これからの社会のニーズに対応できる優れた理容師・美容師を養成する理容美容専門学校である。

そのためには、一人一人の学生に基礎技術から専門的な技術・技能・知識の修得が出来るよう教育環境を整え、その中で理容・美容業の厳しさや楽しさなども体得させながら、理容・美容業に誇りを持った学生の育成に努めなければならない。そして、何より、理容・美容業がお客様に満足してもらえる技術とサービスを提供する業であることを認識させなければならない。

そこで、本校では従来から次の教育目標を掲げている。

- ・誠意----すべてのお客様に対して、真心を持って接することができるよう、日常において接客の心構えを持たせる。
- ・熱意----いかなる時でもお客様が満足できる結果が得られるよう、一生懸命頑張れる精神力を養う。
- ・創意----お客様に満足してもらえる必要な知識、技術、快適な施設や設備など、常日頃からよりよいものを創り出そうとする意識を持たせる。

これらの教育目標は、在学中はもとより理容・美容業に従事する上で、生涯持ち続けてほしいと願っている。

### 2. 本年度の重点目標と計画

#### ① 国家試験合格体制の強化

理容科は、全員合格という目標を毎年連続で達成している。本年度も全員合格を目指していく。また、美容科においても昨年度は、98.1%という高い合格率を達成したが、本年度はさらにその上を目指す。特に2年次においては、実習及び学科の教育体制及び補講体制をさらに充実し実技試験・筆記試験対策の強化に取り組んでいく。

#### ② 理容・美容実践教育の強化

職業実践の強化として理容・美容業界と連携し、業界トップレベルの派遣講師によるヘアカット、着付、アップスタイル、カラーリング等、総合技術の充実を図る。

また、理容所・美容所でのインターンシップを通じて、実際のサロンワークを学び即戦力と成り得る実践教育を行っていく。

### ③ 校外コンクールへの支援強化

県内及び県外における校外コンクールに積極的に参加させ、平成 30 年度の全国学生技術大会(岡山大会)に向けて、その競技種目でのレベルアップに力を入れていく。

その一環として学生には、技術的支援、用品等の物的支援などを後援会と協力して行っていく。また、本校教員の種目別指導体制の充実を図り学生サポートを行っていく。

### ④ 学生指導の充実

1 年生の学生を対象に、担任面談、校長面談を実施し、授業、コンクール、友人関係など多岐にわたって相談を受け学校生活のソフトランディングを目指す。

### ⑤ 接遇・マナー検定の取得(全日本美容業生活衛生同業組合連合会評価認定制度 S B S)

本年度は実践教育として、即戦力となる接遇・マナー検定を理容科、美容科 1 年生に取得させる。また、美容科学生にはエステ・メイク・着付けなどの検定受験を積極的に促し、付加価値の高い美容師を養成していく。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

### (1) 教育理念・目標

番号	評価項目	評価
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
1-2	学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1 0
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1 0
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

#### ① 課題

本校の教育目標である「誠意」「熱意」「創意」については、学生便覧に記載するとともに各教室にも掲げて周知させてきた。また、担任からは折に触れて建学の精神や本校の目指す理容師・美容師の使命、目的について説明し学生の理解を求めてきたところである。

さらに、校章とそのコンセプトを学生便覧に載せ「晴れの国 岡山」からヘアファッション界への発信源となるビジョンを描き学生との意識の共有化を図ってきた。従って、これらの取り組みにより、教職員全員の共通理解と目標の共有化がさらに深化したと思われる。

#### ② 今後の改善方策

保護者に対しては、後援会総会などで学校の理念・目的・育成人材等について理解を求めているが、いま少し不十分と思われるのでホームページや学園祭等あらゆる機会を通してさらなる周知に努めたい。

## (2) 学校運営

番号	評価項目	評価
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	④ 3 2 1 0
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1 0
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1 0
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1 0
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1 0
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

### ① 課題

例年通り平成29年度の学校運営方針は、前年度末の学園理事会において運営方針と事業計画が決定され、その後の職員会議において教職員に示されている。

また、諸規定(就業規則・給与規定等)も整備され、教職員が勤務に安心して専念できるよう整えている。教務における意思決定システムでは、学年会議、職員会議、職員会議や職員終礼において意思決定を行い教職員相互の情報交換及び共通認識を十分に図っている。

なお、日常の教育活動等に関する情報公開もホームページ上でいち早く公開している。

### ② 今後の改善方策

本年度も昨年に引き続き、地域社会等に対するコンプライアンスに力を入れていく。

まず、自動車通学における交通法規の遵守や自転車通学のマナー、交通事故の防止など教職員が機会あるごとに呼びかけていく。

また、学友会が中心となり定期的に近隣の清掃を行うとともに、ゴミのポイ捨て禁止、近所の方々との挨拶、高齢者へのいたわりなど奨励していく。

## (3) 教育活動

番号	評価項目	評価
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1 0
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1 0
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1 0
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1 0
3-5	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置付けられているか	④ 3 2 1 0

3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1 0
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1 0
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1 0
3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1 0
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1 0
3-11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1 0
3-12	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

#### ① 課題

平成 28 年 2 月に理容科と美容科が職業実践専門課程として認定を受けた。理容・美容業界との連携は以前より行っていたが、さらなる技術修得を目指して業界トップレベルの講師派遣を依頼し、高度なカット、スタイリング、振袖、留袖着付、まつ毛エクステ、メイク、などを実施していく。また、実践教育として理容・美容業界でのインターンシップも実施するとともに、全日本美容業生活衛生同業組合連合会評価認定制度 S B S 等の検定取得とあいまって業界のニーズに対応する人材育成を行っていく。

さらに、理容師法施行規則及び美容師法施行規則の改正が行われ、両方の資格取得が容易になった。これにより本校は他校に先駆けて平成 30 年 4 月から理容修得者課程、美容修得者課程を本校の昼間課程及び通信課程に設置したので、さらにスキルアップした理容師・美容師の養成に貢献できると思われる。

#### ② 今後の改善方策

より高度化する実習内容と各種検定やコンクール指導など、教員の技術力が求められる時代となった。その為、今後は校内研究授業を実習対象とし一層の指導力向上を研鑽していきたい。また、様々な研修会や講習会にも参加し教職員の資質向上に努めたい。

#### (4) 学修成果

番号	評価項目	評価
4-1	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-2	資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-3	退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1 0
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

#### ① 課題

平成 29 年度 3 月卒業(昼間課程)の国家試験合格率は 4 年連続で理容科 100%となった。美容科は 97.9%となり、ほぼ昨年と同様の結果を得た。これらは、全国平均を上回り資格

取得率はまずまずの成果が得られたと思われる。また、理容所・美容所の求人数は大変多く就職希望者のほぼ全員が就職を達成し良好である。

## ② 今後の改善方策

卒業生の動向については、定期的連絡体制の確立や同窓会活動による情報収集など図りたい。退学については、学生指導の充実で述べたとおり、親身な担任面談や校長面談などを実施し問題解消とともにモチベーションの維持に努めてほしい。

## (5) 学生支援

番号	評価項目	評価
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1 0
5-7	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1 0
5-8	卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1 0

おいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

## ① 課題

平成 29 年度の支援活動では、全ての項目について高い評価となった。このことは、学生支援の充実があげられる。例えば、前期・後期に多額の授業料等を納付ではなく経済的負担を軽減する月額納付制度や通学に要する交通機関が不便なことにより自動車で通学する学生の為に駐車代を無料とする駐車場支援制度の設置。また、後援会と協力して校外コンクールや学生技術大会などの派遣費、用具用品の補助など個人負担の軽減も行っている。

さらに、平成 30 年度からは自宅が遠隔地にあり通学が著しく困難な学生が、賃貸住宅等に入居した場合には、住宅費支援制度も設けている。

今後とも、学生が健康で安心して学校生活を過ごせる環境づくりと同時に理容・美容の優れた技術と専門知識の習得に専念できるきめ細かなサポート体制や支援体制を推し進めていく。

## ② 今後の改善方策

平成 30 年度から理容修得者課程、美容修得者課程を実施していくので、すでに業界で活躍している卒業生や在校生に対しても、広く周知を行い理容師・美容師の資格を合わせ持った優れた技術者を養成し社会のニーズに応える教育機関として、その使命を果たすことが求められる。

## (6) 教育環境

番号	評価項目	評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1 0
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1 0
6-3	防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

### ① 課題

教育設備においては、後援会支援のもと各教室等に最新のプロジェクターやスクリーンを設置し、技術映像や資料掲示などができるよう環境整備を行っている。

実践教育の一環として行うインターンシップでは、1学年が12月と3月に5日間、2学年で8月に5日間実施し、理容所美容所でのサロンワークを体験することにより、職業意識・就労意識の自覚を見に付けさせている。

### ② 今後の改善方策

日本各地で発生する大災害に対し、学生にはしっかりとした防災教育や非難訓練を実施するとともに、教職員の危機管理体制、緊急連絡体制あるいは地域自治体との相互援助など、万が一の事態に備えた体制作りと強化が重要である。

## (7) 学生の受入れ募集

番号	評価項目	評価
7-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④ 3 2 1 0
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1 0
7-3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1 0
7-4	学生納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

### ① 課題

学生募集活動では、特に募集要項の学納金等において2年間に必要な金額を詳細に記載し、誤解や虚偽のないよう記載している。高等学校への情報提供では、今年も県内高等学校進路課に年3回程度訪問して、本校の現状や在校生の状況を報告するとともに、平成30年度募集要項を配布した。

また、県外高校生に対する活動では、過去に入学したことのある高等学校及び近隣高等学校を訪問し情報提供を行っている。

さらに、高等学校内で実施する進学相談会や模擬授業などに積極的に参加し直接高校生に理容・美容分野の説明を行っているので、本校の情報提供は適正かつ正確に提供できたものと思う。

## ② 今後の改善方策

今年においても、高等学校内で実施する体験型説明会や入学まもない高校1年生に対しての分野型説明会が増えてきた。早くから職業意識を芽生えさせ進路決定に役立てる流れがあるように思う。これらの会に参加した時は、サービスの多様化する理容業・美容業及び、本校で学ぶ教科や国家試験など、正確な情報を高校生に提供していく。

## (8) 財務

番号	評価項目	評価
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1 0
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1 0
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

### ① 課題

本年度も本校の学園会計を指導する指吸会計センターから、本年度の学園会計は健全であり財政基盤は安定していることの報告を受けた。また、学園監事により学園・学校運営や資金収支においても適正であることの監査報告を受けている。なお、これからもより一層の透明性と健全経営を図っていく所存である。

## ② 今後の改善方策

第4次産業革命といわれる産業構造の変化において、実践的な産学連携教育やグローバル化に対応する人材養成など、日本の教育機関の改革が始まってきた。この流れは、専門職大学・専門職短期大学という専門職業人を養成する新たな高等教育機関設立に向かっている。

すでに、本校も職業実践専門課程を設置し専門職業人を養成する専門学校だが、これらの教育改革には、しっかり情報収集に努め急速に変化する時代に対応できるよう準備することが必要である。

## (9) 法令の遵守

番号	評価項目	評価
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1 0
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1 0
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1 0
9-4	自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

### ① 課題

例年通り、理容師養成施設指定規則・美容師養成施設指定規則及び専修学校法に基づき適正に運営を行っている。個人情報保護対策ではセキュリティソフトの導入や書類管理の徹底

などを行っている。学生アンケートを前期・後期に2回実施し、各分類項目の分析を行い問題点の解決をはかった。また、教職員による自己評価の結果に基づいて、学校関係者評価委員会において、客観的評価を得て学校運営の改善を行っている。

② 今後の改善方策

次年度においても、関連する業界団体と連携協力し、自己評価での問題点や学校関係者評価での提言を受け入れて、よりよい学校づくりに励んでいきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

番号	評価項目	評価
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1 0
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

③ 特記事項

本校では、物理的・時間的に許す限り社会貢献・地域貢献や他の教育機関との連携授業並びに施設使用の提供を行っている。

- ・ 豪雨災害時における緊急避難場所-----岡山市大元学区連合町内会
- ・ チャレンジワーク！お仕事体験教室-----岡山市立福田公民館
- ・ パラ×コレ(障がい者のファッションショー)-----パラコレ実行委員会
- ・ 理容科交流実習-----岡山県立岡山豊学校
- ・ うらじゃ祭り(うらじゃ踊り参加とメイクボランティア)---うらじゃ実行委員会
- ・ 65歳以上の親睦会場-----岡山市北区大元「若草町 よつ葉サロン」

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成29年度の学校運営について、在学者数並びに入学者数は昨年同様順調であり学校運営の安定的基盤を築いている。また、国家試験において理容科は全員合格の100%を本年度も達成し、美容科も昨年とほぼ同様の合格率となった。学生活動では、学園祭、うらじゃ祭り、パラ×コレなど学生活動も積極的に行われ社会的好評を得た。校外コンクールでは、本年度も多数の上位受章者を輩出し本校の技術のレベルが改めて注目された。引き続き平成30年度に向けても、理容・美容業界と密接に連携し、トップレベルの講師派遣による実習や国家試験対応の検討など積極的に取り組み、優れた理容師・美容師の養成に努めるよう職業実践専門課程認定校としての使命を果たしていく。